

校長室だより(No.22)

令和3年9月22日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

学校行事で育てる力

応援合戦に向けて



うまく踊れるように



運動会当日



2学期は、大きな学校行事がたくさん計画されている学期です。19日(日曜日)には運動会を実施しました。行事を通して子どもたちを育てると言われますが、具体的にどのようなことか考えてみました。

行事で育てる力は、まず①「人間関係形成力」があります。リレーのチームや応援団、学級、学年と様々な人との関わりが必要となります。次に②「物事をやり遂げる粘り強さ」です。得意なことならさらに、苦手なことならこの機会に逃げることなく、「走」や「表現」に臨んでほしいと思います。③「計画を立てて行う力」については、ほとんどの練習計画を教師側で準備してしまうので子どもたちの出番は、応援合戦の練習計画やリレーの自主練習といったところでしょうか。④「人の役に立とうとする心・公共心」については、高学年では低学年の指導やお世話で育つと考えられます。こうしてみますと「キャリア教育」でいうところの「基礎的・汎用的能力」とほぼ一致することがわかります。

また、学力の下支えとして大切な「自己肯定感」の育成においても重要です。様々な学校行事は、子どもたちそれぞれの個性を出して他者に認められるよい機会です。ことにより学校や学級に居場所ができることとなります。ただ、「認める」ことにおいて、「一番だった」「優勝した」「よい賞」だったという結果ではなく、経過をほめていくことを大切にしたいと考えます。結果はどうあれ、どのように事に取り組んできたかをしっかり見ていきたいと思います。

これからの学校行事については、子どもたちの主体性を大切にできればと考えます。現在、新型コロナウイルス感染症のため様々な制約がある状態です。今後もこのような状況があるかもしれません。しかし、子どもたちからこんなことがやってみたい。こんな工夫を考えた。などが出てくるような主体的な取組に変えていくことも可能だと思います。従来行事内容を大きく見直せるよい機会と考えています。

最後に、発達に課題のある児童にとっては、この行事期間中の学校生活は、何かと変更が多く、見通しが持てないまま不安を抱えて活動している場合が多くなります。これらの負担が登校しぶりや起床困難、帰宅後の混乱、頭痛、腹痛、チック、強迫症状、感覚過敏等として現れる場合があります。このようか状況が続くと自尊心や自己肯定感の低下にもつながります。(ライフステージに応じた広汎性発達障害に対する支援の在り方に関する研究)変更された日課や週時程、振替となった日の過ごし方などで混乱が生じやすいとも言われています。できるだけ子どもたちのリズムを崩さないこと、平日に学校行事を実施していくなど、この点についても十分な配慮が必要だと考えます。